

大学出版

9
号
'90
春



大学出版部協会

Association
of
Japanese University
Presses

北海道大学図書刊行会

Hokkaido University Press

慶應通信

Keio Tsushin Co., Ltd.

産能大学出版部

Sanno Institute of Business Administration

玉川大学出版部

Tamagawa University Press

中央大学出版部

Chuo University Press

東海大学出版会

Tokai University Press

東京大学出版会

University of Tokyo Press

東京電機大学出版局

Tokyo Denki University Press

東京農業大学出版会

Tokyo University of Agriculture Press

東京理科大学出版会

Science University of Tokyo Press

法政大学出版局

Hosei University Press

放送大学教育振興会

The Society for the Promotion of
the University of the Air

明星大学出版部

Meisei University Press

早稲田大学出版部

Waseda University Press

名古屋大学出版会

The University of Nagoya Press

大阪経済法科大学出版部

Osaka University of Economics and Law Press

関西大学出版部

Kansai University Press

九州大学出版会

Kyusyu University Press



大学出版
9号

Spring・1990

読書の周辺・もう頼杖はつかせない	高濱靖英	1
出版の国際化とは何か	中陣隆夫	5
—— 第四一回フランクフルト・ブック・フェア報告 ——		
放送大学学園を見学して	藤村信行	9
—— 第11回「編集者のつどい」 ——		
九州地区研修会	惣塚一雄	11
大学出版部ニュース		13
新刊案内 '89・10 / '90・3		18
第11回(平成元年度)日本生命財団出版助成図書		28
大学出版部協会の歩み	巻末	

大学出版部協会マーク・デザイン 道吉 剛

本小冊子の表示価格は、税込価格です。

もう頬杖はつかせない

高濱 靖 英

(九州大学歯学部教授)

ひところの子供たちは、モヤシツ子とからかわれたものである。背丈だけがヒョロヒョロ伸びて、ふんばりがきかず、ちょっとしたことでも、すぐに骨折する。先日発表された学校保健統計調査によると、昭和の御代の六三年間に、一七歳男子で九・九センチ、同年の女子で七・五センチ、身長が伸びている。戦中から戦後にかけての数年間は、逆に縮んでいるはずだから、近年の子供たちの身長の伸びは目を見るものがある。

戦前、戦後をひっくりかえり、昭和時代の青年の身長の間成長率を割り出すと、男子で〇・一六センチ、女子で〇・一二センチという数字が得られる。戦前はどうかだったかという、明治の終りから昭和一四年までの三九年間に、二〇歳の男子で三・六センチ、女子で四・八センチ伸びている。同じように年率に直すと、男子で〇・〇九センチ、女子で〇・一二センチとなる。戦後の男子の年間の伸び率は、

戦前のその二倍に近い。これに対して、女子は、戦前も戦後もなく、ひたすらに同じ率で伸び続けている。

外庄の矢面に立たされて、粉骨碎身してきたために男子は伸び悩み、その庇護のもとに、女子はスクスクと言うか、スクスクと言うか育ってきたからであろうか。それとも、日本男子は、プレッシャーに弱い、ひ弱な体質なのに引きかえ、大和撫子は、時代の流れなどには、ビクともしない、足腰の強さを備えているからであろうか。少なくとも、無神経だったからとは思いたくない。

先日、欧州諸国を歴訪した海部総理が、各国首脳の出迎えを受けて挨拶する様子がテレビで映し出されていたが、相手の肩にも届かないような短身のわが総理が、相手を見上げて握手しているさまは、気の毒に思えて仕方がなかった。もしもあの歴訪が、新聞の憶測していたような選挙対策であったとしたら、もっと訪問先を吟味すればよかったのに、とつくづく思ったものである。

二言目には国際化という言葉がでてくる昨今のことである。人の交流は今後ますます盛んになっていくことだろう。その場合、外国―特に長身者国に人を送る場合、看板になるような人は恰幅のいい人を選ぶべきであろう。しかし、それも、こしばらくの辛抱かもしれない。日本人の身長の伸びがこのまま続くとすれば、世界で最も背の高い民族になることも夢ではない。

三〇年前、私はインドネシアの大学で教えた経験がある。当時の日本人の、年間の一人当りの国民所得は三〇〇ドル弱で、アジアでは二位だった。一位はゴムや錫を持つマ

ロシアであった。アメリカのそれは約二〇〇〇ドルで、日本の十倍近かったと記憶している。そのアメリカが伸び悩み、日本はアメリカを追い越すまでになったのだから、感慨無量である。

国民所得の伸びのように、日本民族は身長だって、そのうち世界で最もノッポ民族になるのではないかと心配していたのだが、身長の伸びは日本人だけでなく、世界的傾向なのだそう、日本人だけが突出するということとはなさそうである。謙譲を美德とするわが民族が、ふところも厚味を増し、それに上背までもが堂々として、他民族を見下すようになったら、お終いである。こと志と反することになるから、もう、あまり伸びない方がよいのかもしれない。

身長が伸びているのに、顎の骨は小さくなったと主張する同僚が現れた。近頃の子供たちは物をよく噛まず、ミルクやスープで食べ物を胃に流しこむので、顎骨の発達が悪く、小さくなったのだという。発掘された縄文時代人、鎌倉時代人、江戸時代人の頭蓋骨と、現代人のそれを比べて、これこの通り小さくなっている、小進化が起っている、と人類学者までが三味線をひいた。

縄文人の顎骨はたしかに大きい、この数千年間には食品の質も量も変わっている。人種的にも、現代日本人と縄文人とは必ずしも同一視できない。せいぜい二、三〇年間の変化を、五、六千年間の変化で説明しようとするところにも無理がある。しかも、顎を使わないから、背丈と同じように、モヤシ顎でヒョロ長くなった、というならまだし

も、小さくなったというのだから、話は逆なのである。たまには、小鼻をヒクヒクさせないと、鼻が小さくなり、そのうち、ペッチャンコになるだろう、というような議論に等しい。

長管骨は主として長軸方向への荷重に反応して伸びるような仕組になっている。刺激が少なかつたら、縮むより逆に伸びるはずである。ただ、同じ長管骨でも下顎骨は特異な骨である。下顎骨の中心部では長軸に直角に荷重がかかるようになっていて、荷重に対応した長さも厚味の変化は、それほど単純ではない。現在、ハイティーンの日本人青年男女と、その生父母の顎骨の大きさを、三次元規格レントゲン写真上で比較検討しているが、今のところ、若者の方が小さいとも大きいとも断定できる所見は得ていない。骨にかかる力が小さければ骨が伸びるのなら、寝たきりの子供の背は、野放図に伸びるかという、爪のようにはいかない。

生体が成熟して落ち着く形と大きさは親から受継いだ遺伝子に書込まれたプログラムに、あらかじめセットされている。カラスの子はカラスになり、ネコの子はネコになる。いくら遺伝子を組み替えたところで、ニワトリの卵からブタは生まれまい。ヒトの子はヒトになるだけでなく、親子の顔かたちは瓜二つと言われるほど似通っていることも少くない。沖縄八重山地方の方言に「生(ま)りしさはぐ」という言葉があると聞いた。子供の顔を見れば、親の顔が想像できるので、誰の子か分るという意味だそうである。

私がインドネシアの大学で、二年間教えたのは歯科矯正

学である。当時、西イリアンにはオランダが踏みとどまり、戦前からの植民地経営を続けていた。スカルノ大統領の叱咤勅励で、国民は植民地解放運動に燃え、国家予算の大半は軍事費に振り向けられていた。文教予算はもとより、何もかも無い無いづくしで、都市には貧民が溢れていた。

歯科医師も絶対数が足りなかった。対人口比で、当時の日本の百分の一以下だった。その歯科医師も大都市に集中していたから、地方の町村はほとんど無歯科医師町村だった。一人の歯科医師を養成するのに、どの国でも数年はかけている。矯正専門医を養成するのは、それから先に、また数年かかる。インドネシアの、十年以上もの先の需要のことを考えて、歯科矯正学を教えるも焼石に水だと思つた。歯並びが悪くなつた患者を治すことより、歯並びを悪くしないよう、予防に重点を置いて教えようと思つた。根源を断つことを考えた方が早道だし、金もかからない。ところが、予防を教えようとも、それまでの歯科矯正学には、予防という項目は無きに等しかった。予防ばかりでなく、その理論的根拠となる病因論も、体をなしていなかった。⁽²⁾

もともと歯学は、外科の一部門として出発している。外科系の医療というものは、痛みを取去る消炎と、損なわれたり、失つたりした機能を回復させる、術後処置の二面を持つている。麻酔法と化学療法の発達のおかげで、歯科治療の消炎部門は極めて単純化された。ところが術後処置は、それと逆比例して、複雑多岐にわたるようになってきてい

る。一つには、質量ともに増大しつつある需要と、技術革新に支えられて、歯冠―咬合の修復は花ざかりである。こちらの方が現今では、むしろ主流をなしていると言えるかもしれない。歯科矯正学は、このような流れの中から派生した若い分野であるから、どうすれば美しい歯並びに変えることができるか、という技術的問題が最優先して取上げられてきたのも無理からぬものがある。

歯は、特殊な骨である顎骨の上に、これまた極めて特殊な骨である歯槽骨で固定されている。歯槽骨は、歯が生えてくると歯根にくっついて盛り上がり、歯が抜けると消失する。歯を骨に接着する役目を果しているこの骨は、特に若い歯槽骨は、外から力が加わっても、た易く変形する。この性質を利用して矯正治療法は成り立っているわけであるが、需要の急増に見合うべく、歯科矯正学は、新しい器材、技法の開発にかまけて、重大な欠落を見過してきた。それは、病因論、診断学不在という、臨床科学の一分科としては、信じられないような奇妙な側面である。医療が美容に押しやられてしまっている。

何が原因で、歯並び―咬合の異常が起つたか、という病因論がまともな育っておりさえすれば、患者の悪い歯並びの原因が遺伝によるものか、後天的要因によるものかの鑑別は、必要不可欠な診断の第一段階であつたはずである。同じ上顎前突でも、突顎形の親に似てそうなた子と、指しゃぶりなどの後天的要因によって、そう変形した子とは、治療方針に雲泥の差が生じてくる。前者は、子の顔を、親に似ていない形に作り替えることができるかどうかとい

う、自然に対する挑戦とも言える試みを繰り広げることになるが、後者は、その子の本来の姿に戻すという、単純な処置ですむからである。

旧来の歯科矯正学は子供の咬合の異常が、宿命的、遺伝的要因によるものかどうか、という最も重要な鑑別さえ怠ってきたのだから、指しゃぶりその他の、外力による咬合の後天的変形の実体も、ほとんど分っていなかった。

指しゃぶりをした子の永久歯の歯並びが悪くなったという例は知らない。乳歯の歯列の変化をきかした例もない。

これは日本のスポック博士と言われる松田先生が育児の百科の中で述べている言葉である。影響力の大きい人の発言だけに早く訂正してもらわないと困るのだが、旧来の歯科矯正学には、それに抗議するだけの裏付けも無かった、ということかも知れない。

今まで見逃されていた異常咬合の病因の一つに頬杖がある。ある患者の母親に、この子の顎の曲っているのは頬杖のせいだと説明したところ、その母親も、授業参観に行っていて、子供の頬杖には気付いていたが、顎が曲るとは思ってもみませんでしたとのことだった。そして、最近の先生は、子供をのびのび育てるということで、そんなお行儀の悪さも注意なさらないようです、と付け加えた。

小学校高学年から中学生にかけて、子供たちは思春期前成長期を迎える、この時期には背丈も年間一〇センチ以上伸びる子も少なくない。下顎骨も一センチは優にのびる。上下顎の咬み合わせを決める鍵となる、小白歯群もこの時

期に生え揃うのである。ちよっぴり大人ぶって左手で頬杖をついて、右手でページをめくりながら本を読む、という子供がいたとすれば、その時間が長いほど、交叉咬合になり易いのである。頬杖も掌を当てがう場所によって、下顎骨のずれ方は違いますが、ずれ方によっては、生えてきた上下の小白歯群が、一山ずれた位置で咬み合わさることになる。成長期にこうしてでき上った上下の咬頭関係は、歯車と同じで、なかなか正常には戻らない。

確かめたわけではないので、間違っていたら失礼になるとは思うのだが、分り易いので名前を出させて頂くと、NHKの美人アナウンサーの国谷裕子、新庄カルナさんなどは、頬杖の既往歴があると私は睨んでいる。顎の曲った患者をこれ以上増やさないためにも、一日も早く新しい歯科矯正学の本を書き、少しでも予防に役立てたいと考えているのだが、断るに断れない、気骨の折れるこんな仕事だから次に舞込んできて、ちっとも筆が進まない。

(平成二年二月二八日)

引用文献

- (1) 古庄敏行・戦後の身長増加に関する遺伝学的考察・人類遺伝学雑誌・18巻2号・一四七—一八六頁・一九七三
- (2) 高濱靖英・自律歯科矯正法・永末書店・一九八三
- (3) 松田道雄・新版育児の百科・岩波書店・五八八頁・一九八〇

出版の国際化とは何か

——第四一回フランクフルト・ブック・フェア報告——

中 陣 隆 夫

(国際担当・東海大学出版会)

第四一回フランクフルト・ブック・フェア(FBF)は、一九八九年十月二一日(水)〜二六日(月)開催された。出版文化国際交流会主催の Frankfurt Book Fair Study Tourに参加しながら、大学出版部協会(AJUP)のスタンドを東京大学出版会のとおりにもうけた。AJUP正式参加は、前年に続いて二回目で、一六校から八一点(一昨年は、一四校から五〇点)の展示出品図書があった。スタンドの協会メンバー・プレートを東京で作成し直し掲示した。ツアーに参加しながらのFBFであったため、一日〇日夕刻から一二日までのあわただしく、短い期間の対応であったが、十月一日から一四日までの変容しつつあるヨーロッパ五ヶ国(パリ、ロンドン、ブリュッセル、ジュネーブ、フランクフルト)訪問のなかで、それぞれの国の大学出版部活動を視察できた。ツアーには、山田渉幹事長、山下正副幹事長も同行し、山口雅己国際担当委員とは、フランク

フルトで合流した。

世界の出版になが起ろうが不変の事実がある——それはフランクフルト・ブック・フェアが年々拡大していることである。昨年は世界九三ヶ国から八、一八九の出版社が参加し、当局の発表によれば、一昨年にくらべて二ヶ国減ながら二二四社、二・八%増である。うち六、〇六一社が東西ドイツ以外からの参加であった。この八千あまりの出版社のうち五、五七八社が単独のスタンドを構え、残り二、六一一社が集合スタンドへの出展で、これらすべてが一昨年を上回り、世界最大のフランクフルト・ブック・フェアはなおも膨張を続けている。今回の海外からの参加中、もっとも多いのがイギリス。自社スタンドをもつ出版社八三〇社で一昨年来を三〇社上回り、それに加え二一社が共同スタンドに出展、以下アメリカ合衆国の六二六社、フランス、イタリア、オランダ、スイス、スペイン、オーストリアで、日本は七六社で第九位であった。

私たちは、九時からはじまる会場にホテル前から五マルクで、メッセ・バスにのる。メッセ会場正面は、朝の急ぎ足、入り口から動く歩道で連絡しているホール六・二が目的地。サイエンス・テクノロジー会場。メッセ・ゲレンデには、長方形の広場の三方を取囲むようにして、第三から第六および「コンGRES」の五つのホールが建っており、空中回廊で連結している。この限られた展示会場(面積一万三、一一七㎡)に増加しつづける参加出版社の三七万八、六九九タイトル(うち新刊一一万四、三九二点)が展



第41回フランクフルト・ブック・フェア会場

示されている。スペース不足が慢性化するのも当然である。各出版社は芸術、小説・文学、教科書、児童書、地図・旅行ガイド・地球儀、科学・技術をしてテーマ館、今年はフランスとなった。また第四ホールは、国際的な出版社・特別スタンドとなっており、二日目の一二日午後、オックスフォード大学出版局などを訪ねようとしたが、どのブースも商談のピーク真っ只中であった。

この会場へ開催期間中に、約二五万の人々が来場した。場内に設けられたレストランも予約しなければ長蛇の列、まつこと三〇分である。のどが渇き、ワイン、ビールがうまいわけだ。話題は、ホメイニ師によって下された死刑宣告の著者ラシュディの『悪魔の詩』、会場には厳しい警戒が張られていた。静かなブームを呼んだのは「環境問題」の本、一九九一年「世界環境の日」にロンドンで出版される『Save the Earth』の共同同時出版の商談であったようだ。

協会のスタンドは、第六ホール、ブースF四〇二。東京大学出版会ブースの一面に、コーナーをもうけ、参加一六校の出版物、和文図書六〇点、英文図書二〇点、独文図書一点を展示し、総合カタログ、協会ディレクトリなどを展示、来訪者に配布した。

いくつかの打ち合せの合間に、美人がたずねてきた。カオリさん、ロンドンにある KEGAN PAUL INTERNATIONAL 社の編集者である。アフリカ、アジア、中東、日本、太平洋地域のノン・コンテンポラリーな歴史教養書を出版しているが、『幕末・明治のメディア展』（早稲田大学出版部刊）に興味があるという。二〇分位いのヤリトリ、



大学出版部協会スタンド

もし事前に情報交換があれば、海外に売れる可能性がいくらでもあるのである。海外への配布、コスト・ダウン、あくわよくば多少の収入も期待できたであろうに。

シャモニー先生との昼食

一日午前、ハイデルベルグ大学日本語科教授のシャモニー先生は、6人の学生をつれてメッセ会場にやってこられた。山口さんが先生の紹介をされ小さなテーブルを囲んでの昼食となった。山田さん、山下さんとわたし、そして

フランクフルトで合流したりヒターさん。先生はドイツの日本研究の紹介を下さった。ハイデルベルグ大学建学六〇〇年を記念して、つい四年前の一九八五年に日本語学科ができたそうで、二〇年前には四つの大学に二〇人しかいなかった学生が、いまや一三ヶ所に八〇人の学生が学んでいるそうである。日本学に関する蔵書は六千点、八千冊で、そういえば、一昨年大学出版部の本を購入いただいている。日本の近代文学を中心に、古代史、社会学、言語学、経済学などをはじめの二年で修めるそうである。

ドイツでは、ある学校を卒業し、その後誰のもとで何を勉強したかがたいへん重要なことである。同じ大学で勉強しないように、したがって、学閥ができないようになっていところが日本とちがう。そういえば、日本のそれとちがって、小学校から高校卒業まで落第がある。また国家への奉仕があり男子の場合、二五歳から大学に入学できる。

文献学、日本史、文学、言語、哲学、宗教を学ぶが、社会学、政治学、経済学といった周辺科目はやらない。お年が五〇歳前後、日本学研究二〇年のキャリアと一九九年の教

師歴をもつ先生は、ときどき右手を口にあてて咳をされた。カゼ気味のような。そんなに身体も大きくなく、ひ弱な感じであったがとても優しそうな先生は、スパゲッティを少しずつにフォークでたべられた。ときどきとなりのワカバヤシ先生に確認されながら、昼過ぎのメッセホール六・二のエレベーターの横にある軽食店は、にぎわっていた。先生はときどき身をのりだして、咳をおさえながら、「ドイツでは国民が教育をうけることは権利であるとされている。日本で学ぼうとするドイツの学生にとって、年に二五〇万円の留学費用がかかる。だから、日本の教育は産業、経済とおなじです。日本が諸外国に知られ、もっと理解を深めてもらいたいならば、日本を理解してくれる人を増やすしかないはずなのですが……」と、先生は残念そうに話された。「これは国全体の政策の問題であって、利益のためでなく、国がやるべきことを企業がやっているからです。ドイツでは、外国人に対しても教育はただ、無償です。もちろん日本人にもです。そしてドイツでは、朝八時から夜九時まで、日本塾を開いて勉強しているところもある」と、先生は説明された。三〇分ほどの団欒であった。

翌日夕方に、日本総領事主催のばんさん会が、市内のインターコンチネンタルホテルで開かれた。先生は「90 JAPAN NOW」の企画委員でもあられるそうだ。混雑のなか、ご夫人同伴の先生のお姿が会場内にみられた。五、六人の人々と環になっている先生は、身長はわれわれ日本人とはそんなにちがわない。親しさは、そこにもあったようだ。ホテルへの夜路、自分のからだを「世界の水」で洗い

流されたようにさわやかであった。

出版の国際化とは

さて、フランクフルト・ブック・フェアの感想、出展の取り組みには

さまざまな意見があらう。出版人と書店人との会合から、スタンドで目のあたり新刊書を検討することから、そしてそこで発展する討論から、フランクフルト特有の多くの新しいものが発展してきたのであらう。第一には、国際出版としての共同出版、第二には、翻訳権の交渉、第三には、会期の間、日々、そして夜々そうした交渉を通じて多くの本がここから生命を与えられ、フランクフルトがなければ、それらは生みだされなかつたらう出版物のこと。第四に、あのようなおおきなフェア（市場、いちば）が毎年催されるのを目のあたりに見ることから、書籍の世界が受ける間接的な多くの刺激をあげられよう。これらが、各個人日頃の出版、あるいはそれに携わる仕事のなかで、いかにうけとめるかにあらう。日頃学術出版で働く同朋、とくにマジメ編集者の積極的な参加を期待したい。日本から欧文出版物を発信させることのみが出版の国際化であるとは思わない。出版に携わる多くの人々との交流によって、出版の何たるかをジックリ考えなおすポイントにたたされている昨今である。

日本の出版界にも世界の風が吹きはじめたようだ。今年のフランクフルトは「日本年」である。この三月には「第一回東京国際ブック・フェア」が晴海で開催された。五月には、北京―日本大学図書館が中国で開催される。出版の国際化とは何か、改めて問いなおすチャンスでもある。

放送大学学園を見学して

——第11回「編集者のつどい」——

藤村 信行

(編集部会・慶應通信)

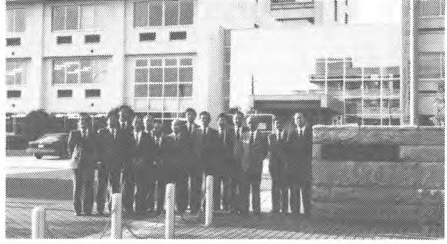
私たち大学出版部協会編集部では、毎年一回、秋あるいは冬に「編集者のつどい」と題して見学会を開いています。この「つどい」は、協会での共同作業をはなれて、編集の仕事にたずさわるものがかかえている問題、疑問等について語り合う場をもつという趣旨ではじまったのですが、回を重ねるにしたがい(今回は第11回)、われわれが深いかかわりをもちながら、その現場を知ることの少ない印刷所、新聞社等を見学するという内容に発展してきています。また編集部会員以外の協会メンバーも参加するようになりました。

今回の「編集者のつどい」は、放送大学のテキスト発行所である放送大学教育振興会が新たに大学出版部協会に加盟したこと(本書16頁参照)、また大学通信教育の仕事兼ねている協会加盟出版部、および通信教育を行っている大学に所属する出版部もあることから、放送というメディア

を活用した千葉県の幕張にある放送大学学園を訪問することになりました(総勢13人・平成元年11月24日)。

総武線幕張駅から5分ほど歩くと、それまでの細い駅前通り沿いに木造二階建の商店が立つ町並から、急に広い道路に囲まれた空地、さらに広い敷地に立つ近代建築物が一望できる大きな景観に変わります。そんな風景の中心に放送大学学園があります。

定刻より会議室で印刷資料とビデオをつかい、総務課の山口紀代志氏から学園の概要説明を受けました。それを手短かにまとめてみますと——放送大学は昭和60年4月より学生を受け入れ(初年度一万8852人)、平成元年3月に第一回卒業生544人を送り出した。/18歳以上なら誰でも無試験で入学できる(年間を二期制—4月から9月と10月から3月に分け、4月入学か10月入学となる)。/学部は教養学部のみであり、六つの専攻(生活と福祉・発達と教育・社会と経済・産業と技術・人間の探究・自然の理解)がある。/授業は放送授業(テレビUHF16chとラジオFM77・1MHzで放送受信地域は関東地域に限られる)であり、用意されたテキストの自主学习とあわせて、各学期ごとに通信指導(レポート)と単位認定試験が実施される単位修得となる。/学生の種類は①卒業を目標とする「全科履修生」——入学には高等学校卒業(見込みを含む)か、それと同等以上の大学入学資格が必要である。六つの専攻のどれか一つに所属し、4年以上在学して、124単位(一科目2単位が中心)以上を修得する(内17単位以上は教員が直接指導する学習センターでの面接授業で修得する)と大



放送大学学園正門にて

学卒業の資格が得られ、「教養学士」の称号が与えられる。最長10年まで在学できる。②一年間在学する「選科履修生」と一学期間(6ヵ月)在学する「科目履修生」——自分の学習したい科目を選んで履修する。18歳以上であれば大学入学資格を必要ない。③大学入学資格を得るための「特修生」——基本科目から16単位以上を履修すれば全科履修生として放送大学に入学できる。この資格は放送大学への入学資格であり、他大学のそれではない。昭和63年度一学期までに746名が特修生を修了している。／卒業までの学費は全科履修生の場合、40万円弱である。／専任教員のほか、国公私立から客員教授等よる206科目が開講されている。／全国に8ヵ所の学習センターがあり、面接授業のほか学習相談、図書の貸出、放送授業の再視聴、単位認定試験が行われる。／テレフォンサービス03-580-4600

説明を受けたあと施設見学に入りました。放送授業のテープコントロール・ルームは、土足厳禁であり、スリッパに履きかえます。放送授業打ち合わせ風景や本部敷地内の学習センターを見学したあと、正門での記念撮影となりました。

見学終了後、学園で用意してくれたマイクロ・バスで幕張メッセへと向かいます。折りしもメッセで放送大学フェアが開催中です。来場者参加番組や番組制作の裏側を見せる企画、公開講演会が催されており、常設展示・実演コーナーの放送大学教授・平沢彌一郎先生の「足の裏健康相談」は足の裏から健康状態が分かるというものであり、デスクワークの多いわれわれは靴を脱ぎ、診察の列に並び、平沢先生より靴の選び方を教示される。それから次回の部の打ち合わせに入り、散会となりました。

通学生のように教室で仲間と一緒に学ぶのところが、一人でテキストの学習を続け大学を卒業することは、一冊でも専門書を読んだ経験のある人なら、その大変さは容易に理解できることと思います。しかも多くの通信学生は職業につきながら卒業をめざします。こうして放送大学を卒業した学生は初年度で54人います(ちなみに私立大学の通信教育で4年制大学を卒業する学生は毎年2千人ほどです)。最初の私立大学通信教育が始まってすでに40年以上がたち、現在21の私立大学(内短大9)が通信教育を実施しています。そして昭和60年に新しい生涯学習をめざして放送大学が開校され、多くの学生が通信教育で勉強しているということは、専門書・研究書を出版している大学出版部のものであって心強いことです。今回の「編集者のつどい」は一冊の本を根気よく通読する読者とのより良き結びつきを求めて、今後も本造りを続けていく気持を新たにすることになった。

九州地区研修会

惣塚 一雄

(営業部会・東京大学出版会)

今回の九州地区研修会は、日頃地方へ出向く機会の少ない部会員14名で行動を共にしました。九州及び山口・沖縄県下の各大学の協力が九州大学出版会をささえ、又協会全体の図書普及に多大に力添えを与えています。

福岡市では、九州大学、福岡大学の2図書館・紀伊國屋書店福岡店・丸善福岡店・九州大学生協書籍部・金文堂大学前店・東販・日販の九州支店に伺い、懇談をいたしました。

九州大学図書館は福岡市周辺4大学図書館とコンピュータ・ネットワークで結び、情報の交換はもとより、図書の相互貸借など、地区の国公立大学の中核館として大きな役割を担っています。また86年以降の受入図書については、コンピュータ入力がすめられ、検索カード不要のカードレス図書館へと着実な歩みを見せていました。

図書館予算に対する図書購入費の比率がどの程度であるかは定かではないですが、話しに聞く限りきわめて少ないようで、未購入本が判明しても予算上のネックをどう打開するか——。これが国公立大学の共通の悩みだと思えます。福岡大学中央図書館の蔵書は約100万冊。この図書を、87年6月よりJICSTのデータベースを基本に稼働させ、94年までにバックファイルもすべて入力すすめるのとこのこと、本格的カードレス図書館が出現することになります。福岡大学の年間購入費は、資料として6億円約5万冊を予定していますが、その中心は逐次刊行物であり又和・洋の専門書であります。

私達は、ここ数年來推進している蔵書調査・見計いによる新刊書の目的納本制度を説明し、あわせて大学出版部活動へのご理解をお願いしてまいりました。幸にも同図書館のご賛同を得られ、本年1月より協会加盟出版部の刊行物すべてに選定・選択の場を与え、その多くは蔵書をしていただけることになりました。

その後、この新刊書自動納本制度は九州産業大学図書館でも採用され、また他の大学図書館から九州大学出版会への問い合わせも寄せられていると聞いております。

協会加盟出版部の刊行する図書は、そのほとんどが少数の研究書・教養書のため、一般書に比較すると市中に出廻る量もたいへん少なく、従って図書館の選書担当者の目に触れる機会も少ないと言えましょう。それだけに、この



福岡市内にて

“見計いによる新刊書自動納本制度”をご採用いただければ、購入の可否にかかわらず、直接選書の機会が与えられることとなります。是非多くの図書館にてご検討をお願いしたいところです。

また、外商活動をされている書店・生協にとっても大学図書館は不可欠の顧客と見えます。図書館と書店・協会の三者でとりかわす『覚書』は年間で18大学出版部の合計約500冊、250万円の納本が約束されることとなります。

今回の九州地区2大学の自動納本も、もちろん図書館の深いご理解があったからこそでありますが、現地九州大学出版会の日頃のご尽力と、同一書店が積極的に取組んでいた結果とも言えます。深く感謝する次第です。

どこの都市も日々変化をしているものですが、ここ数年来の福岡では路面電車が廃止され、地下鉄が走り人は地下街へと入っています。福岡の中心地の天神交差点付近の人の流れも、大変な変わりようで、地上、地下と商圏も2分されてしのぎあっています。しにせといわれた書店でも専門書の専有率が極端に低くなっているように見受けられます。その中で専門書の棚が比較的優遇されているのは、大型書店と大学生協でした。

私達は今回取次店・書店の方々と面談し専門書の絶対売場面積を維持するようお願いしてまいりましたが、読者に店頭で手にとって購読していただけるよう常備出荷等品揃えに協力してゆくことの必要性を切に感じました。

九州は関西に次いで二回目の地方研修会でしたが、昨年の関西と同様の成果を上げたと確信しています。今年も時間をみつけては東京をはなれ各地の大学を訪問して自動納本制度を広く普及する機会をつくるように努めたいとおもっています。今後とも図書館をはじめ、関係各位のご支援ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

北海道大学図書刊行会

■めぼしい産物と言え、気候に合わせた蕎麦と自生の笹位しか見当たらない極寒の地、幌加内町で、町興しの目玉として笹を原料とした手漉紙を開発した。手漉だけに、和紙に似たなかなかの手触りであるが、商業ベイスに乗るとはとても言えない■林産物利用の有り方を提言する『森からのおくりもの』を昨年

大学出版部ニュース

産能大学出版部

『「感性学」入門——直感から直観へ』(小林宏著・定価二〇〇〇円)が好調に売れている。成熟時代の消費は、感性というファクターが極めて重要になるが、これがまた曖昧なところの多い要素でもある。この難問に著者独自の鋭いメスを入れ、感性の世界の見取図を書きあげたのが本書である。

暮れに出版した。著者の川瀬清氏は北大の名誉教授、退官後の人生にボランティアとして、この過疎の町に技術協力する道を選んだのである■独特の感触に惚込み、カバー用紙にこの紙を使おうと、何とか必要枚数を漉いてもらった。色校も済ませ、いざ本番というところでNGがでた。本機に掛けると紙送りがうまくいかないとのこと、止むなく用紙を変更した。校正紙10枚は特装本用として残された。

慶應通信

◆新種保険論(庭田範秋著/定価三〇九〇円)——新時代を拓く新種保険の問題点と将来の展望を論じる。内容—食品事故(対策)・保険論・中小企業受取不渡手形保険論・労災保険論・交通災害(対策)・保険論・保証保険論。◆近代日本社会調査史(一)(川合隆男編/定価二八八四円)——未開拓の領域であった近代日本

玉川大学出版部

◆『玉川児童百科大辞典』全21巻 改訂第5版 小原國芳監修/小原哲郎編集統括 編集・玉川大学出版部 発行・誠文堂新光社

未来をにやう子どもの確かな人間形成を助ける体系的百科辞典の改訂新版が刊行された。小学校高学年から中学生向。

揃い定価 一五二〇〇円

における社会調査史研究の試みである。当時の調査者のおかれた歴史的・社会的文脈に立戻って、当時の調査活動を再掘する。I期一八六八年〜一九一〇年◆民俗宗教へのいざない(宮家準著/定価二〇六〇円)——民俗宗教の概要から、祭や修行、さらには著者の民俗宗教との関り等について、民俗宗教・修験道研究の第一人者である著者の、ここ二十年來の文章や講演をまとめたものである。

〔21巻構成〕
①数学②物理③化学④科学技術⑤宇宙・科学史⑥地球⑦植物⑧動物⑨保健・体育⑩道徳・哲学

・宗教⑪国語⑫文学⑬美術⑭音楽・演劇⑮日本歴史⑯世界歴史⑰日本地理⑱世界地理⑲社会⑳家庭㉑世界人名辞典・総索引

◆『玉川こどもきょういく百科』全31巻 発売元・誠文堂新光社 子どもが最初に出会う百科。幼・小学校低学年向。

揃い定価 八二四〇〇円

中央大学出版部

塚本重頼『裁判制度の国際比較』

本書は世界三十カ国を超える諸外国の裁判制度を比較、集大成したものである。欧米諸国のみにとどまらず、アジア・アフリカ諸国についてまで、著者が実際にその地の裁判所を訪れ、法廷の様子や審理を見聞して得た情報を中心に体系的にまとめあげ興味深い。定価四九〇〇円

大学出版部ニュース

東京大学出版会

一昔前にマル金とマルビという言葉が流行したが、日本社会はどれほどの階層差をもっているのだろうか。高度成長によって日本人は「豊か」になって平等化し、今や九割は中流意識をもつといわれるが、日本は学歴社会で世の中は不公平だと感じる人も多い。

直井優ほか編『現代日本の階

鈴木重生『ヌーヴォー・ロマン 周遊—小説神話の崩壊—』
ヌーヴォー・ロマンと呼ばれるにいたった運動の生成過程をめぐって、丹念な跡づけがなされている本書は、「語り」と「語り手」という交差する視点から作品毎の変貌を浮彫りにする。

巻末に詳細な作家別年表(作品の邦訳文献を含む)／研究書の邦訳文献／邦語文献／刊行年表(作品・研究書・レコード等)を付した。定価三三九九円

東海大学出版会

●今世紀古代史学界最大の発見の一つ『アルキメデス方法』が佐藤徹氏(東医歯大)によって翻訳(プラス解説)された。新しいことを創造するのに必要な「健全なにぶさ」を持ち合わせていた古代数理科学者・機械学者アルキメデスの科学的的位置付けを考察する。15450円

●地球の温暖化、オゾン、酸性

雨など、地球規模での環境問題が話題になっている。貝殻やサンゴ礁、海洋学の研究を通して四五億年の地球史を解釈した北野康氏(名大名誉教授)のライフワーク『炭酸塩堆積物の地球化学』が出版された。生物の生存環境の形成と発展史が読みとれるすぐれた文献といえよう。

4944円

東京電機大学出版局

層構造』(全4巻)はこのテーマに正面から取り組んだ社会学版国勢調査ともいえる研究プロジェクトの集大成で、思いつきの評論ではない科学的なメスが階層構造の各局面に入れられている。

『1巻社会階層の構造と過程』、『2巻階層意識の動態』(各二六七八円)が発売中。『3巻教育と社会移動』(二八八四円)は五月刊。七月刊の『4巻女性と社会階層』で完結。

ており、その名のとおり任意に与えられた点を滑らかな曲線で結ぶことができます。そもそも、生命保険の保険点数等の高度な数式処理や人口統計のデータ解析のため研究されたのが発祥で、小局の関連書籍も好調な売れ行きです。

シンポジウムでは、マルチスブライン研究の権威であるC・K・チュウイ、テキサスA&M大学教授をはじめとする特別講演もありました。

小局では、このたび発足したスブライン研究会の事務局を引き受けることとなり、スブラインシンポジウム(3月26〜27日)および入門セミナー(3月22〜24日)を本学にて、多数の参加者の中、開催致しました。

スブライン(SPLINE)とは、製図の時滑らかな曲線を描く道具(自在定規)を意味し

東京農業大学出版会

『日光地域の野外レクリエーション利用の変遷に関する研究』永嶋正信著定価四二〇〇円。

明治時代に国立公園の指定を求めた請願・建議の対象地は、日光と富士山の両地域である。これが次第に各地へ拡大され、政府を動かし、日本の国立公園制度の誕生につながった。本書では、わが国の代表的自

大学出版部ニュース

法政大学出版局

▼好評重版

J・デリダ／高橋允昭編訳

他者の言語―デリダの日本講演

定価三九一四円

……本書は、ベンヤミン、ハイデッガー、フロイト、カント、シェリングなどへ独自の観点からアプローチが試みられている四本の講演と三回にわたるゼミ

然風景地である日光地域を対象に、その利用の変遷を、藩制時代を参考期間として、明治以後一―一六六年間にわたって考察。

①国立公園の成立過程

②自然風景地のレクリエーションの意義と役割

③民間団体保見会が建造物及び自然風景の保護に尽した功績

④明治と昭和の二度にわたる交通施設の変革による利用者の著しい変化。車道の改良は利用の大衆化につながった。

ナールの翻訳、さらに一九八七年に編者がパリで行なったインタビューを収録している。なかでも、マルセル・モースから出発して「贈与」の問題を論じた「時間を―与える」、そしてデリダ自身の仕事をめぐる「私の立場」からは、けっして一筋縄ではいかず、つねに複数の射程で考えるこの思想家の姿勢が浮き彫りになってくる。

週間読書人・増田一夫氏評より

東京理科大学出版会

月刊「SUT」は、東京理科大学の英文名の頭文字でB5版七五頁位のもので、簡単に科学知識が得られるよう毎月一定のトピックスの特集を組んでいる。本年一月号から更に人間関係、研究室巡り、研究者の横顔、わが仕事、わが職場、教員の頁、インフォーマーション、学生の頁、数学、物理、化学、生物、

及び語学のセミナーを掲載して卒業生はもとより、学生に対する各種親切的な情報を提供できるように努力している。

各月主要記事

一月号 わが国の理工学高等教育―現状と問題点

二月号 東京物理学講習所―東京物理学学校

三月号 就職幹事座談会―理工系卒業生の動向 以上

定価四五〇円 送料五六円
年間購読会員五一五〇円

明星大学出版部

日本近代教育史料研究会編『資料文政審議会』全七冊A5版函入、六八、〇〇〇円

文政審議会は、大正十三（一九二四）年から昭和十年（一九三五）まで約一年間にわたって内閣に設置された教育政策審議機関である。同審議会は二つの大戦の戦間期という国内外の変動と転換の時代における日本

の重要な教育施策を立案・審議してきた。例えば、現役将校の学校配属、幼稚園令の制定、青年訓練所の設置、師範教育や中等教育の制度整備、青年学校令の制定などは、すべてこの審議会の議を経て実行されたものである。この『資料文政審議会』全七冊の刊行により、両大戦間期の国家教育政策の動向を把握するうえで基礎的史料を考究しえたと考えられている。（刊行のことばより）

放送大学教育振興会

■放送大学とともに発展

生涯教育のエースとして誕生した放送大学は、一九八五年から自前のTV局・FM局を通じて一〇四科目の講座を開設、電波による大学教育新時代の幕を開いた。「学びたい人が、いつでも、どこでも学べる大学」という開学趣旨そのまま、開設科目は人文・社会・自然・語学

大学出版部ニュース

早稲田大学出版部

▼P・デブリン、内田一郎訳『イギリスの陪審裁判―回想のアドムズ医師事件』（定価四八〇〇円）謀殺か否かをめぐる裁判で裁判長をつとめた著者が、自らその裁判の経緯を分析し、陪審裁判のあり方、安楽死の是非等を問う。陪審制度を考える際の最上の文献・テキストである。

▼室潔『ドイツ軍部の政治史―

の全分野にわたり、学際的な講座構成の特長を生かすため、教材は全科目新しく書き下ろされた。当振興会は、その編集・刊行を一手に受け持つ学術出版団体として大学開講の前々年に発足、いらい今日まで、開設科目が年々増加する中で計四百数十点の教材を刊行してきた。今年も、七一点を出版した。

■高まる評価・集まる信頼

大学への関心・評価が高まるとともに執筆陣も多彩となり、

1914～1933』（定価二〇六〇円）

第一次大戦からナチス政権成立に至る二〇年を軍事と政治の葛藤の歴史として描き、軍事とは何か、議会政治、政党政治の問題点とは何かを明らかにする。

▼中野幸一編『源氏物語資料影印集成』（全十二巻、定価各一五四五〇円）源氏物語研究に不可欠の古注・梗概・俗訳・評論・辞書などを収録。源氏物語の研究史・享受史を彩る典籍の宝庫である。毎月一冊ずつ配本中。

手頃な厚さの中に必要な情報・知識がコンパクトにまとめられている教材への評価も高まっている。各地の国公私立大・短大・高専等からの引合いが年々増え、現在二百余校が教科書として使用中。その一方、各種社会教育の教材に活用されているケースも少なくない。

ハードカバーで新登場の『国家と法―憲法』（芦部信喜・一六五〇円）は、『憲法概論』（樋口陽一・一六五〇円）とともに相変わら

ず司法試験をめざす学生の人氣を集め、公認会計士をめざす学生には『経営管理』（森本三男・村松司叙他・二五〇円）が好評。そのほか、『日本語』（二六五〇円）、『日本語教授法』（九六〇円）、『行政学』（二五〇円）等が好調。新刊では『比較社会史』『行政法』『税務会計』『博物館学』等が話題を呼びそうだ。（新刊案内参照）

■専用FAX番号の変更 新番号は03-1599212482。連絡・ご注文等にご活用ください。

名古屋大学出版会

◇新刊紹介◇

▼中村幹雄著『ナチ党の思想と運動』（定価五一五〇円）ナチ党を無原則な機会主義に基づく旧中間政党とみなす支配的学説を退け、広汎な支持基盤を獲得したナチ党のイデオロギーと運動体としての実相を解明。

▼望田幸男編『国際比較・近代中等教育の構造と機能』（定価

四二一〇円）新たに比較社会史の視角から教育史に取り組み、近代の支配的な教養文化の担い手を養成したエリート中等教育を、社会的・文化的ヒエラルヒーとの接合関係において分析。

▼プラズマ・核融合学会編『プラズマ診断の基礎』（定価三六〇五円）現代プラズマ実験において活用されている多くの計測手段を、その原理に遡って解説するとともに応用例についても述べたプラズマ診断の基本図書。

大阪経済法科大学出版部

本学出版部は一九八七年に大学事務局の一部門として設立された。八九年に大学出版部協会に加盟を承認された。設立及び協会加盟に際しては、協会各位の懇切なご指導に依るところが大きい。

創学以来、施設は勿論の事有名教授招聘等、学内外の充実に研究活動も活発となり本出版部

大学出版部ニュース

関西大学出版部

新刊紹介

▼中山喜代市著『スタインベック文学の研究—カリフォルニア時代—』(定価七五〇〇円)

作家の処女作『黄金の杯』(一九二九)から代表作『怒りのぶどう』(一九三九)までの諸作品を年代順に論じたもの。未出版書簡の緻密な調査と作品の精確な分析による待望の本格的研

究の役割も一層重要性を増して来た。又本学の特色としてアメリカ、中国、フランス等の大学と

姉妹提携を結び学術交流が盛んであるが、特に北京大学、延辺大学とは教授陣の往来も頻繁に行われ、シンポジウムも相互に開催された。

本学アジア研究所及び国際部の動きによって、本出版部の出版の指向性は特に中国及び朝鮮東アジアに力点が置かれることになろう。

究書。▼神谷国弘著『西独都市の社会学的研究—日本都市再組織への素材論考—』(定価九六〇〇円) 西独都市はさまざま

な分野で日本都市の未来を先導する要素を多々備えている。本書は、比較社会学的な問題意識に立って西独都市社会を理論と現実の両面からとりあげて分析したもの。西独都市を下敷きとして、あらためて日本都市社会の再認識を試みた著作として、ユニークなものである。

◆刊行書内容抄録

『ドイツ反ファシズム抵抗運動史』 ドイツファシズムの象徴「ブーヘンヴァルト強制収容所」見学で心打たれた著者はドイツにおける反ナチス・ドイツ反ファシズム抵抗運動を徹底的に記述する。『明治新聞ものがたり』第二次大戦までの新聞の果たした戦争責任や読者と新聞社との信頼関係の破壊と良心につい

て記す。『ジャーナリズムを叱る』 言論の自由が本当の意味で通用しているか? 天皇、日の丸、君ケ代の否定的意見への脅迫は? 『回船大法考』

海事情習を法民俗学、法人人類学から述べる大著。住田海事奨励賞受賞。『中国農村改革の道』 人民公社の整頓を経て文化大革命後の請負性の全面開花を説く。『現代における唯物弁証法』 88年北京大学における日中哲学者の合同討論集。

九州大学出版会

▼三好不二雄・三好嘉子編『佐嘉城下町電帳』A5・一〇三〇頁・一五五〇円。日本生命財団助成図書。嘉永七年(一八五四)に作成された鍋島家文書「電帳」は、城下町の電帳成を詳細に記録した、他に類例のない、白眉に属する史料とみられる。幕藩制社会の城下町研究だけでなく、人口、居住、宗教、

借家、建築など、各分野の研究にも大いに貢献できるものであり、わが国都市史研究の根本史料とみなされる。▼平嶋義宏『学名の話』A5・五三五六円。重版出来。「動物の大型図鑑」が次々に刊行されているが、記載されている学名は、なじみにくい。この難関を突破しようとする愛好家の手がかりになる「朝日新聞評。宮島寛『九州のスギとヒノキ』A5・三六〇五円、も合わせて重版出来。

新刊案内 '89・10 / '90・3

(表示価格は税込価格です)

■北海道大学図書刊行会

北大法学部を読む〔90年版〕

北海道大学法学部編 一〇〇九円

森からのおくりもの―林産物の協役たち

川瀬 清 一六四八円

一九三〇年代英国の平和論―レナード・ウルフと国際連盟体制―

ドクトル・ジバゴ論攷

吉川 宏 五一五〇円

北の住まいと町並―もうひとつの生活空間―

工藤 正宏 四九四四円

教育をうける権利―アメリカ・西ドイツに関する法的検討―

足達富士夫 一六四八円

明治国家形成期の外政と内政

千葉 卓 五九七四円

Ciradian Clocks and Ecology

永井 秀夫 五五六二円

Natural History of Social Wasps and Bees

広重・本間編 一〇〇九四円

in Equatorial Sumatra

坂上・大串・Roubik 編 一四四二〇円

■慶應通信

シエイクスピア四大悲劇―せりふと演技―

石川 実 二五七五円

臨床音声学の理論と実際―正しい構音と発音―

濱崎 健治 六一八〇円

生命と倫理〔日本倫理学会論集24〕

日本倫理学会編 三五〇二円

現代の学校にもとめられるバリア・フリー環境

野村みどり 二六七八円

地中海世界と宗教

坂口昂吉編著 四四二九円

イギリスの児童福祉

小松 隆二 二二六六円

近代日本社会調査史(1)

川合隆男編 二八八四円

キャンパスの歌

池田 真朗 一三三九円

政治哲学史

池田 真朗 一三三九円

行政法総論(改訂)

多田真鋤訳 二八八四円

地域研究と第三世界

金子 芳雄 二五七五円

慶應義塾大学地域研究センター編

一〇三〇円

原価会計情報システム論〔慶應義塾大学商学研究叢書16〕

山口 操 三八一一円

会計的統合の系譜―会計構造論の類型論的体系化―

山口 操 三八一一円

〈慶應義塾大学商学研究叢書17〉

笠井 昭次 七二一〇円

明治民法史の研究(上)〔手塚豊著作集第七巻〕

手塚 豊 六一八〇円

正論自由 第七巻―崩れゆく共産主義―

中村 勝範 一七五一円

民俗宗教へのいざない

宮家 準 二〇六〇円

現代経済史ヨーロッパ

渡辺 国広 二五〇〇円

渡辺国広メモ

渡辺 国広 一〇〇〇円

政治学と国家

根岸 毅 四七三八円

明治初期刑事法の研究

中山 勝 三八〇〇円

倫理学

小泉 仰 一二三六円

社会科学概論

寺尾 誠 二五七五円

西洋哲学史―古代・中世―

松本 正夫 二八八四円

■産能大学出版部

ミセスのこころを掴む
「ノストラダムス予言」からの決別
ふくろう博士のビジネススマン勉強術63の要点

柏木 勇治 一三八〇円
越智 宏倫 一五〇〇円

企業再創造のC I戦略

マーケティング戦略学

女性流ヒット商品発想法

税金対策のすべて

ちよっと先が見えてくる本

戦国武将に学ぶ勝敗の分岐点

戦略的職場目標達成マニュアル

感性学入門

「ビジネス脳力」開発法

私のお客様づくり

奇跡の記憶力・集中力強化法

新これからのOA

高収益物流戦略

「生きる技術」なき技術者は落伍する
ビジネスハンドブック

和多加一郎 二〇〇〇円
岡本 邦彦 一八〇〇円
産能大学編 一二〇〇円

■玉川大学出版部

大学授業の研究

娘と私の英語留学記〔増補版〕

人物による西洋近代教育史 Ⅱ・ノール／島田四郎訳

ヨーロッパの大学

教育学から教育科学へ―教育のメタ理論―

片岡徳雄・喜多村和之編 三六〇五円
松香 洋子 一二三六円
島田四郎 二二六六円
島田雄次郎 二八八四円

■中央大学出版部

ヌーヴォー・ロマン周遊―小説神話の崩壊―

黒人の政治参加と第三世紀アメリカの出生

日本経済を読む

裁判制度の国際比較

デタントの成立と変容―現代米ソ関係の政治力学―

ジュレミー・ベンサム著作解題目録

近代日本文学論―大正から昭和へ―

米国刑事判例の動向Ⅱ―合衆国最高裁判所判決―

現代金融の読み方

90年代日本への提言―平和学の見地から―

〔新版〕消費者保護―イギリス法の歩み―

Economic Policy Management :
A Japanese Approach

データとグラフでみる社会体育(全3巻)

東海大学出版会

東海大学社会学研究室編

W・ブレツィンカ／小笠原道雄監訳 八二四〇円
鈴木 重生 三三九九円
中島 和子 三二〇〇円
三宅 武雄 二七八一円
塚本 重頼 四九〇〇円
R・W・スチーブンソン／滝田賢治訳 二九八七円
中央大学図書館編 五一五〇円
中央大学人文科学研究所編 二八八四円
渥美東洋編 四九四四円
三宅 武雄 二五七五円
J・ガルトゥング／高柳先男他訳 二二六六円
G・ボリー他／新井・池上訳 二八八四円
丸尾 直美 四一一〇円

地球の歴史24講

堀田 進 三〇九〇円

確率過程へパポリス応用確率論②

A・パポリス／垣原・根本訳 二六七八円

結晶としての固体へバインズ固体物理学①

G・バインズ／寺内・中村訳 二〇六〇円

近・未来大学像の探究

海老原・香取・宮坂・堀江 二四七二円

セネカ道徳論集(全)

セネカ／茂手木元蔵訳 二〇六〇〇円

固体論の基礎へバインズ固体物理学②

G・バインズ／小島・澤田・中村訳 二〇六〇円

チェルノブイリの放射能と日本

寺島・市川編著 一六四八円

コンサルテーション・リエゾン精神医学の課題

岩崎徹也監修 五一五〇円

チビアシナガバチの社会へ動物⑤

岩橋・山根 二八八四円

Variations on Literary Themes

J・モーエン 一三三六〇円

石油地質学概論

氏家 良博 二〇六〇円

炭酸塩堆積物の地球化学

北野 康 四九四四円

土佐藩元禄大定目の法制史的研究

庄野 隆 六六九五円

SIPRI年鑑1989

ストックホルム国際平和研究所編 一五四五〇円

アルキメデス 方法へ東海大学古典叢書

佐藤徹訳・解説 一五四五〇円

確率論の応用へパポリス応用確率論③

A・パポリス／西・根本訳 三六〇五円

身近な現象の物理と化学

鈴木智恵子 二六七八円

魚類尾部骨格の比較形態図説

藤田 清 一五四五〇円

樺と竜胆

松前 信子 二〇六〇円

■東京大学出版会

講座国際政治3 現代世界の分離と統合 木戸翁他編 二二六六円

政治体制へ現代政治学叢書3

山口 定 一九五七円

ATPと代謝制御へUPバイオロジー76

石橋 貞彦 一四四二円

刑法各論講義

前田 雅英 三六〇五円

解析演習へ基礎数学7

岡本和夫・金子晃・清水英男・杉浦光夫 二八八四円

日本の企業

今井賢一・小宮隆太郎 三九一四円

人間再生の社会運動

庄司 興吉 二八八四円

鉱床学概論

飯山 敏道 三二九六円

アメリカの社会保障

社会保障研究所編 四三三二円

国際倒産法序説

貝瀬 幸雄 一三三六〇円

世界の大都市6

バンコク クアラルンプール シンガポール ジャカルタ 大阪市立大学経済研究所編 三〇九〇円

帝国議会衆議院委員会議録69

衆議院事務局編 九二七〇円

帝国議会衆議院委員会議録70

衆議院事務局編 九二七〇円

火山とプレートテクトニクス

中村 一明 四六三五円

核酸・蛋白質の構造情報

内田久雄編 七〇〇四円

日本都市史入門I 空間

高橋康夫・吉田伸之編 三九一四円

講座国際政治4 日本の外交

渡辺昭夫他編 二二六六円

社会階層と政治へ現代政治学叢書7

今田 高俊 一九五七円

日本の政治と言葉 上

石田 雄 二六七八円

日本経済・蓄積と成長の軌跡

宇沢弘文編 三九一四円

水田農業を考える

金沢 夏樹 二五七五円

シロアリの生態へUPバイオロジー77

安部 琢哉 一六四八円

一〇〇万分の一日本列島重力異常図

河野芳輝・古瀬慶博編 一八五四〇円

帝国議会衆議院委員会議録

衆議院事務局編 九二七〇円

帝国議会衆議院委員会議録

衆議院事務局編 九二七〇円

投票行動へ現代政治学叢書5

三宅 一郎 一九五七円

講座国際政治5 現代世界の課題

宇野重昭他編 二二六六円

発達心理学入門Ⅱ 青年・成人・老人

無藤隆・高橋恵子・田島信元編 二〇六〇円

日本の政治と言葉 下

石田 雄 二六七八円

SALS入門

小柳義夫・中川徹 二〇六〇円

判例教材 刑事訴訟法

三井誠・井上正仁編 三七〇八円

気の世界〈東京大学公開講座50〉

有馬朗人編集代表 二二六六円

ミクロ経済学講義

根岸 隆 二〇六〇円

中国仏教史4 南北朝の仏教(下)

鎌田 茂雄 一〇三〇〇円

カナダの社会保障

社会保障研究所編 四一二〇円

インド古典演劇論における美的経験

上村 勝彦 二五七五〇円

子どものスポーツ〈UP選書262〉

武藤 芳照 一五四五〇円

日本都市史入門Ⅱ 町

高橋康夫・吉田伸之編 三九一四円

現代物理学〈基礎物理学5〉

小出昭一郎 二四七二円

弥生時代の始まり〈UP考古学選書11〉

春成 秀爾 一八五四円

大日本史料 第二編之十一

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

中ノ関係史の研究 一九四五〜一九五〇

石井 明 五三五六円

大日本史料 第二編之十二

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

近代養蚕業の発展と組合製糸

嘉治 元郎 二七八一円

「自己過程」の社会心理学

中村陽吉編 二九八七円

犯罪学―理論的考察〔原書第3版〕

平野 綏 六三八六円

製糸同盟の女工登録制度

東条由紀彦 七四一六円

ヴォールド&バーナード/平野龍一・岩井弘融監訳

八七五五円

国際資本移動と累積債務

石見徹・伊藤元重編 三六〇五円

都市政策と地域形成

蓮見音彦・似田貝香門・矢澤澄子編 九八八八円

現代日本の階層構造2 階層意識の動態

原 純輔編 二六七八円

肝臓の生物学〈UPバイオロジー79〉

織田 敏次 一四四二円

朝鮮芸能史〈東洋叢書6〉

李 杜鉉 二八八四円

大日本史料 第二編之十七

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

変態の細胞生物学〈UPバイオロジー78〉

吉里 勝利 一四四二円

大日本史料 第二編之十八

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

結晶育成基礎技術〔第2版〕〈物理工学実験シリーズ12〉

高須新一郎 二八八四円

大日本史料 第二編之十九

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

〔新版〕複素解析

高橋 礼司 二四七二円

現代日本の階層構造1 社会階層の構造と過程

直井優・盛山和夫編 二六七八円

超函数入門 上〔第2版〕〈UP応用数学選書1〉

金子 晃 三二九六円

日本都市史入門Ⅲ 人

高橋康夫・吉田伸之編 三九一四円

大日本史料 第二編之十四

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

物質生産の生態学〈UPバイオロジー80〉

黒岩 澄雄 一六四八円

大日本史料 第二編之十五

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

国際関係入門

佐藤英夫編 一九五七円

大日本史料 第二編之十六

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

行動科学における統計解析法

芝祐順・南風原朝和 三〇九〇円

フロン〈UP選書263〉

富永健・巻出義紘・F・S・ローランド 一四四二円

河川工学

高橋 裕 四〇一七円

発達心理学入門Ⅰ 乳児・幼児・児童

無藤隆・高橋恵子・田島信元編 二〇六〇円

人類生態学

鈴木継美・大塚柳太郎・柏崎浩 三二九六円

行政学の基礎概念

西尾 勝 四三二六円

行政学の基礎概念

西尾 勝 四三二六円

行政学の基礎概念

西尾 勝 四三二六円

行政学の基礎概念

西尾 勝 四三二六円

行政学の基礎概念

西尾 勝 四三二六円

行政学の基礎概念

西尾 勝 四三二六円

現代アメリカ像の再構築

本間長世・亀井俊介・新川健三郎編

四五三二円

ビギナーズ デジタル信号処理

吉本 久泰 二七五〇円

教会・公法学・国家―初期カール・シュミット―

和仁 陽 八二四〇円

ビギナーズ デジタルフィルター

中村 尚五 二四〇〇円

日本のソフトウェア産業

戸塚秀夫・中村圭介・梅澤隆 三九一四円

やましの Level II COBOL 入門―操作の基本とプログラム技法―

中村 尚五 二四〇〇円

日本のシダ植物図鑑 6

倉田悟・中池敏之編 一八五四〇円

コンピュータの基礎知識

黒田 康太 二〇六〇円

植物生活環の調節

高橋信孝編 七〇〇四円

気体放電の基礎〈理工学講座〉〔新訂版〕

大日方 真 二〇六〇円

大日本史料 第二編之二十一

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

第二種情報処理試験全問題解答集〔'90春季版〕

武田 進 二四〇〇円

大日本史料 第二編之二十二

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

情報科学の基礎〈情報科学セミナー〉

足立 暁生 二五七五円

大日本史料 第二編之二十二

東京大学史料編纂所編 八二四〇円

スイッチング理論と応用〈情報科学セミナー〉

足立 暁生 二五七五円

Human Olfaction

高木 貞敏 一八五四〇円

量子物理学入門―物質工学を学ぶ人のために―〈理工学講座〉

青野朋義・尾林見郎・木下 彬 三〇九〇円

Ten Great Educators of Modern Japan

Benjamin C. Duke 編 五九七四円

学生のための FORTRAN-JIS 上位水準による―

秋富勝 他 一七五一円

Evolution of Cancer

奥山信一・三品均 八四四六円

改訂 演習機械設計の考え方・解き方Ⅱへわかりやすい機械教室

須藤 亘啓 二二六六円

Theoretical and Applied Mechanics, Vol.38

山本善之・橋本英典編 一四九三五円

スーパートレインへハイテク選書ワイド

荻原宏康・小豆沢照男・斎藤亨 一七〇〇円

Photometric Atlas of Northern Bright Galaxies

小平桂一・岡村定矩・市川伸一編 二二六六〇円

知能ロボットへハイテク選書

浅野 都司 一三三六円

The Chimpanzees of the Mahale Mountains:

Sexual and Life History Strategies 西田利貞編 八八五八円

日光地域の野外レクリエーション利用の変遷に関する研究

永嶋 正信 四二〇〇円

Population Ecology of Human Survival 大塚柳太郎・鈴木継美 六五九二円

Foreign Business in Japan before World War II 湯沢威・宇田川勝編 七〇〇四円

■法政大学出版局

スウィフト 政治・宗教論集

J・スウィフト／中野好之・海保真夫訳 四四二九円

現実とその分身 C・ロセ／金井 裕訳 一六四八円

蛙(かえる)―ものとの人間の文化史64― 碓井 益雄 二八八四円

アイロニーの効用―『資本論』の文学的構造― R・P・ウルフ／竹田茂夫訳 一六四八円

カント純粋理性批判の研究 牧野 英二 三九一四円

高校生諸君! 法政大学出版局編 一三三九円

声の回復―回想の試み― L・マラン／梶野吉郎訳 二四七二円

中世の高利貸―金も命も― J・ル・ゴッフ／渡辺香根夫訳 一七五一円

カルデロンの芸術 M・コメレル／岡部 仁訳 二七八一円

源氏物語―その聖と俗― 熊野 健一 一三三九円

雑誌 同時代 54号―小特集・語り― 黒の会編 一〇三〇円

新保守主義の経済社会政策―比較経済研究所研究シリーズ5― 増田寿男編 四九四四円

法政大学比較経済研究所／川上忠雄・増田寿男編 四九四四円

古代神道の本質 山上伊豆母 二五七五円

北陸古代の政治と社会 米沢 康 六六九五円

ヘーゲル哲学の根源 山口 誠一 三八一一円

新世界へ―鎖国日本からはみ出た栄寿丸の十三人― 佐野 芳和 二八八四円

他者の言語 J・デリダ／高橋允昭編訳 三九一四円

フロイトと人間の魂 B・ベテルハイム／藤瀬恭子訳 一六四八円

ドイツ零年 E・モラン／古田幸男訳 三二九六円

社会の労働者階級の状態 J・バートン／真実一男訳 二〇六〇円

王権の神話 井本 英一 二五七五円

歴史哲学 ヴォルテール／安斎和雄訳 六四八九円

資本論を理解する―マルクスの経済理論―

D・K・フォーリー／竹田茂夫・原 伸子訳 二八八四円

現代の通貨 ショーペンハウアー―哲学の荒れ狂った時代の一つの伝記― 原 薫 三六〇五円

形而上学と神の思想 R・ザフランスキー／山本 尤訳 四九四四円

戦争と平和 W・パネンベルク／座小田豊・諸岡道比古訳 一九五七円

カール・カウツキー―一八五四―一九三八― シセラ・ボク／大沢正道訳 一九五七円

古代エジプトの性 G・ステインソン／時永淑・河野裕康訳 四六三五円

物の地獄―ルネ・ジラルと経済の論理― リーセ・マニケ／酒井傳六訳 一八五四円

デュムシエル&デュピュイ／織田年和・富永茂樹訳 二九八七円

絵師(えし)―ものとの人間の文化史63― むしゃこうじ・みのる 二〇六〇円

日本木工技術史の研究 成田寿一郎 一〇〇九四円

意味と意味の発展 R・A・ウォルドロン／築島謙三訳 二八八四円

もうひとつのロマンチック街道 藤代 幸一 一九五七円

写真論―その社会的効用― P・ブルデュエー監修／山縣照・山縣直子訳 三九一四円

日本芸能史?―近代・現代― 藝能史研究会編 二七八一円

生熊平和とアナーキー U・リンゼ／内田俊一・杉村涼子訳 二四七二円

日本蠻人(あまき)伝統の研究 田辺 悟 一三九〇五円

雑誌 哲学 40号―特集―科学・哲学・文学― 日本哲学会編 一三三九円

雑誌 哲学 40号―特集―科学・哲学・文学― 佐藤 毅 三〇九〇円

マスコミの受容理論

政治批判4—日本社会運動史料・機関紙誌篇—

法政大学大原社会問題研究所編 一三三六〇円

〈文芸史と文芸理論〉文学の歴史と理論〔改訂版〕

熊倉 功夫 一六五〇円

■放送大学教育振興会（〇印はビデオ教材）

教育学概論〔改訂版〕

田浦 武雄 一六五〇円

教育社会学Ⅰ—人間の発達と教育—

新井 郁男 一六五〇円

教育社会学Ⅱ—集団・組織・体制と教育—

岡崎 友典 二一六〇円

幼児教育

萩原元昭・高橋恵子編著 一七五〇円

生徒指導の実際

内山喜久雄編著 一三四〇円

発達心理学

宮川知彰・野呂 正編著 一九六〇円

児童の心理と教育

三宅和夫編著 一六五〇円

老人の心理と教育

宮川知彰・荒井保男編著 一九六〇円

言語障害〔改訂版〕

内須川 洸 一七五〇円

行動科学Ⅰ—基礎的行動の科学—

鹿取廣人編著 一六五〇円

行動科学Ⅱ—社会的行動の科学—

末永俊郎編著 一六五〇円

比較思想—自然について—

城塚 登 一六五〇円

中古日本文学

青山昌文編著 一九六〇円

近代詩歌

秋山 虔編著 一六五〇円

日本語学概論

野山 嘉正 二五八〇円

イギリスの言語文化Ⅰ—文学作品による文化史—

古田東朔編著 一九六〇円

イギリスの言語文化Ⅱ—イギリスの全体像を求めて—

橋口 稔 一六五〇円

歴史にみる日本人と仏教

川西進・山内久明編著 二四七〇円

博物館学Ⅰ—博物館の現在—

速水侑・小栗純子編著 二一六〇円

〈アジア論Ⅳ〉朝鮮の歴史

大塚和義編著 一九六〇円

生活と芸術〔改訂版〕—日本生活文化史—

武田幸男編著 二〇六〇円

生活原論—生活と福祉の基礎理論—

山手 茂編著 一六五〇円

衣服論・服飾の歴史と現代

小池三枝・徳井淑子編著 一七五〇円

住まいと環境

宮崎基嘉編著 一九六〇円

少年期の健康科学

本間博文・梅干野 晁 二五八〇円

法学入門

古谷 博編著 一七五〇円

行政法

矢崎 光圀 一六五〇円

民法

藤田 宙靖 一三四〇円

家族法

山田 卓生 一六五〇円

国際法—現代国際法を理解するために—

栗林 忠男 一六五〇円

現代日本の政治

新藤宗幸編著 一七五〇円

日本の地方自治

阿部 齊編著 一六五〇円

比較社会史

樺山 紘一 一三四〇円

民俗学

宮田 登 一六五〇円

経済社会論

坂井 素思 一六五〇円

仕事とくらしの経済学

島田 晴雄 二二七〇円

管理会計

櫻井 通晴 一六五〇円

税務会計

武田 隆一 二二七〇円

産業と環境・資源

黒澤 一清 二四七〇円

設計工学—解析と総合—

塚田 忠夫編著 一九六〇円

システム工学〔改訂版〕

浅居喜代治編著 一六五〇円

技術史—人間と技術のふれあい—

飯田 賢一 二二七〇円

数学基礎論

前原昭二・竹内外史 一五五〇円

線形代数

長坂 建二 三六一〇円

ベクトル解析

小島 守生 二〇六〇円

計量生物学・行動計量学 林知己夫・水野欽司編著 二二七〇円

物質とエネルギー〔改訂版〕 池上雄作編著 二〇六〇円

力とエネルギー 戸田 盛和 二〇六〇円

物理の世界 戸田盛和編著 一七五〇円

物質の構造と機能 齋藤 一夫 二五八〇円

基礎化学 平川暁子編著 一九六〇円

基礎生物学Ⅰ―生物のつくりとはたらき― 平本幸男・毛利秀雄編著 一六五〇円

基礎生物学Ⅱ―遺伝・発生・生態・進化― 平本幸男・毛利秀雄編著 一九六〇円

生態学概論〔改訂版〕 岩城英夫編著 一九六〇円

脳と行動〔改訂版〕 伊藤 正男 一七五〇円

日本の自然〔改訂版〕―自然観から自然字へ― 奈須紀幸・西川治編著 二四七〇円

宇宙の構造と進化〔改訂版〕 小尾信彌編著 二八八〇円

大気と海洋〔改訂版〕 奈須紀幸編著 二二七〇円

現代資源論〔改訂版〕―鉱物資源とその開発― 山口梅太郎編著 二〇六〇円

英語Ⅰ(98)―Rebuilding the Foundation of Your English― 比嘉正範・平賀正子 一九六〇円

英語Ⅱ―Paraphrasing Difficult English― 比嘉正範・N.J. Teele 編著 二二七〇円

英語Ⅲ―Reading Academic English― 比嘉正範・N.J. Teele 編著 二〇六〇円

ドイツ語Ⅳ 辻 理 二二七〇円

ドイツ語Ⅴ 岩村 行雄 一九六〇円

フランス語Ⅳ―文の論理的構造― 福井芳男編著 二二七〇円

フランス語Ⅴ―フランス社会を理解しよう― 福井芳男編著 二二七〇円

福井芳男編著 二〇六〇円

スペイン語Ⅰ―スペイン語を始めよう― 山口 羔正 一六五〇円

スペイン語Ⅱ―スペイン語を続けよう― 山口 羔正 一六五〇円

幼稚園の一日・環境とのかかわり(約30分) 放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

幼稚園の一日・クリスマスツリーをつくる(約45分) 放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

マイクローティーチング・京都教育大学の実践(約40分) 放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

マイクローティーチング・東京工業大学の実践(約45分) 放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

マイクローティーチング・教育実習校における実践(約50分) 放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

マイクローティーチングの方法(約35分) 放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

授業を生かすコンピュータ 天びん―小学校4年・理科―(約45分) 放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

メディア・ミックスの授業―中学総合学習(琵琶湖学習)(約50分) 放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

メディア・ミックスの授業―中学3年選択社会科―(約40分) 放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇円

■明星大学出版部

中国語Ⅰ 郝玉純・志村嗣生・杉山太郎・平野邦子 一九五七円

カセット 本文編 八二四円 練習編 六一八円

早稲田大学出版部

人間心理と政治―政治心理学入門― フェルドマン 二四七二円

英華 学芸詞林の研究—本文影印・研究・索引—

杉本つとむ・呉美慧編著

一〇三〇〇円

政治思想研究叢書

P・マッシンジャー／山田英教訳

一四四二円

日本・中国『管子』関係論文文献総目索引 谷中信一編 二七八一円
イギリスの社会と自然 橋本 宏 二二六六円
イギリスの陪審裁判—回想のアダムズ医師事件— P・デブリン／内田一郎訳 四八〇〇円

ドイツ軍部の政治史—1914～1933— 室 潔 二〇六〇円
帝政ロシアの共同体と農民 鈴木 健夫 五七六八円
大隈重信とその時代—議會・文明を中心として— 早稲田大学史編集所編 二五七五円

江戸芝居番付朱筆書入れ集成 早稲田大学演劇博物館編 九二七〇円

お伊勢山遺跡の調査 第4部 弥生時代から平安時代 早稲田大学所沢校地文化財調査室編 一五八〇〇円

早稲田文学 '89年11月号、'90年4月号 早稲田文学会 各五三〇円
科学哲学22 特集・科学と反—実在論 日本科学哲学会編 一八五四円

アジア文化第14号 特集・東南アジア諸国の文化と教育 アジア文化総合研究所編 二二〇〇円

平和研究第14号 特集・言語政治学と平和の課題 日本平和学会編 二五七五円

平和研究叢書

5 市民・NGO運動と平和 日本平和学会編 一九五七円

6 社会主義の理念と平和 日本平和学会編 一六四八円

エリザベス朝喜劇10選 全10巻 大井邦雄監修 第五巻 ぴかぴかすりこぎ団の騎士 F・ボーモント／大井邦雄訳 一四四二円

第10巻 古い借金を新しく返す方法

政治思想研究叢書

政治思想の現在

政治思想史の方法

中村敬宇研究—明治啓蒙思想と理想主義—

源氏物語資料影印集成 全12巻 中野幸一編

第1巻 源氏一部技書

第2巻 紫塵愚抄・一葉抄楨柱

第3巻 源氏小鏡

第4巻 光源氏一部歌并詞

早稲田大学蔵資料影印叢書 国書篇全32巻

第18巻 中世歌書集二

第29巻 馬琴評答集(三)

■名古屋大学出版会

シェイクスピアの人類学—喜劇と通過儀礼—

E・ベリー著／岩崎宗治他訳

組織された資本主義

H・A・ヴィンクラー編／保住敏彦他訳

Cancer Mortality Statistics in The World—1950～1985—

青木国雄他編

名古屋大学五十年史—部局史—二—

名古屋大学五十年史編集委員会編

筋感覚からみた運動制御

日本の対外金融と金融政策—1914～1936—

国際技術協力の哲学を求めて

藤原保信・千葉真編 三〇九〇円

小笠原弘親・飯島昇藏編 三〇九〇円

荻原 隆 三五〇二円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

一五四五〇円

現代日本語コース中級Ⅱ

名古屋大学総合言語センター日本語学科編

二五七五円

プラズマ診断の基礎

プラズマ・核融合学会編

三六〇五円

ナチ党の思想と運動

中村 幹雄

五一五〇円

国際比較・近代中等教育の構造と機能

望田幸男編

四一二〇円

医外な物語

青木 国雄

二五〇〇円

■大阪経済法科大学出版部

大阪経済法科大学アジアフォーラム〈2号〉

アジア研究所編 六一八円

「朝鮮史研究の動向」

現代における唯物弁証法

一日中唯物弁証法シンポジウム論文集—— 四九四四円

大阪経済法科大学哲学研究室 北京大学哲学系共編

■関西大学出版部

スタインベック文学の研究—カリフォルニア時代—

中山喜代市 七五〇〇円

西独都市の社会学的研究—日本都市再組織への素材論考—

神谷 国弘 九六〇〇円

■九州大学出版会

初等力学演習—五〇題(第二版)

甲木 伸一 一六四八円

The Syntactic and Stylistic Development of the Infinitive in Middle English

真鍋 和瑞 六一八〇円

九州土木紀行—九州・沖縄の土木施設を訪ねて—

土木学会西部支部編 二六〇〇円

負債の定義と認識

J・St・G・カー／徳賀芳弘記 三六〇五円

くらしの経済と福祉〈久留米大学公開講座3〉

額綱教三・駄田井正編 一九五七円

三好不二雄・三好嘉子編 一五四五〇円

R・V・テイト／三栖寛訳 四一二〇円

佐嘉城下町電帳 海洋生態学入門 戦間期農地政策史研究 資本構成と資本市場 現代農業と地代の存在構造 古典インド聖典解釈学研究 イギリス資本主義と帝国主義世界 桑原莞爾・井上巽・伊藤昌太編 六六九五円

飯塚 正朝 五三五六円

出来事の民族誌—フィリピン・ネグリート社会の変化と持続— 清水 展 五七六八円

針貝邦生 一二三六〇円

花田仁伍編 七八二八円

市村昭三編 六一八〇円

坂根 嘉弘 四六三五円

『国富論』と十八世紀スコットランド経済社会

飯塚 正朝 五三五六円

出来事の民族誌—フィリピン・ネグリート社会の変化と持続— 清水 展 五七六八円

第11回 (平成元年度)

日本生命財団出版助成図書

刊 行 期 間

平成二年4月

平成三年3月

●日本生命財団は優れた研究成果でありながら出版の困難な学術専門書を対象に大学出版部協会加盟出版部に出版助成を行っている(既刊130点)

- (1) 近代日本教員養成史研究
——十五年戦争下の師範学校——
- (2) 日本近海における海底火山及び火山島の噴火
- (3) ファイアーエコロジー
——火の生態学——
- (4) 御雇教師ハウスクネヒトの研究
- (5) 西山光一日記・一九二五—五〇年
——新潟県一小作農の記録——
- (6) 乳幼児の人格形成と母子関係
- (7) 日本丸木舟の研究
- (8) 海陸道順達日記
- (9) 水の法と社会
——治水・利水から保水・親水へ——
- (10) 乳幼児の心身発達と環境
——大阪レポートと精神医学的視点——
- (11) 近世北部九州諸藩史の研究
- (12) 障害児の心理と指導

逸見勝亮 (北海道大学教育学部助教授) 著 北海道大学図書刊行会

小坂文予 (岡山大学理学部教授) 著 東海大学出版会

飯泉 茂 (東北大学名誉教授) 編著 東海大学出版会

寺崎昌男 (東京大学教育学部教授) 編著 東京大学出版会

西田美昭 (東京大学社会科学研究所教授) ほか編 東京大学出版会

三宅和夫 (北海道大学教育学部教授) 編著 東京大学出版会

川崎晃稔 (鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校教諭) 著 法政大学出版局

佐藤利夫 (新潟県相川町町史編纂委員) 編 法政大学出版局

森 實 (法政大学社会学部教授) 著 法政大学出版局

服部祥子 (大阪教育大学助教授) ほか著 名古屋大学出版会

檜垣元吉 (元九州大学名誉教授) 著 九州大学出版会

山下 功 (九州大学教育学部教授) 編 九州大学出版会

大学出版部協会の歩み

昭和38年(一九六三)6月11日 大学出版部協会設立
総会、東京大学出版会館にて。玉川大学出版部、中央大学出版部、東海大学出版会、東京大学出版会、東京電機大学出版局、東京農業大学出版会、法政大学出版局、日本学術振興会、日本図書文化協会(東京教育大学)、早稲田大学出版部、以上十校代表者により大学出版部協会設立総会を行なう。大学出版部協会
初代幹事長、箕輪成男。

昭和46年(一九七二)11月 関西大学出版部、協会加入。
昭和47年(一九七二)9月 北海道大学図書刊行会、協会加入。

同年11月 アジア太平洋地域大学出版部会議(「国際図書年」を記念して(第一回)東京開催、主催 大学出版部協会。

昭和51年(一九七六)5月 国際出版連合(I.P.A.) 京都大会、および国際学術出版連合第二回総会を国立京都国際会議場にて開催。

同年9月 新幹事長に中平千三郎(東京大学出

版会)選出。九州大学出版会、協会加入。

同年11月 玉川大学出版部・東海大学出版会、国際学術出版連合に加入。

昭和52年(一九七七)12月 東京電機大学出版局、協会再加入。

昭和53年(一九七八)2月 協会、初めて「大学出版部協会総合図書目録」一九七八年度版(日本)を刊行し、共同発送完了。以後年一回定期。

同年5月 東京大学出版会にて、「協会設立一五周年・回顧と展望」座談会を行なう。

同年10月 大学出版部協会創立一五周年記念、大学出版部書展示即売会」を紀伊國屋書店P R ルームにて開催。

同年12月 明星大学出版部、協会加入。

昭和54年(一九七九)8月 産業能率大学出版部、協会加入。

昭和55年(一九八〇)7月 日本生命財団第一回出版助成の贈呈式と講演会。大阪・日本生命財団にて行なわれた。12月 慶應通信、協会加入。

昭和56年(一九八一)8月 韓国大学出版部協会訪日団の歓迎レセプション(日本出版クラブ)。

同年9月 中国にて「日本大学出版物展覧会」を中国図書進出口総会社の主催、大学出版部協会の協賛により開催。

昭和57年(一九八二)9月 「日米大学出版局刊行物展」が、丸善主催、日米両国の大学出版部協会の協賛により丸善本店で開催。名古屋大学出版会、協会加入。

昭和58年(一九八三)5月 大学出版部協会創立二〇周年記念講演会を紀伊國屋ホールにて開催。

昭和60年(一九八五)4月 新幹事長に石井和夫(東京大学出版会)選出。東京理科大学出版会、東京農業大学出版会、協会加入。

同年8月 中国大学出版社協会代表团、来日。

昭和61年(一九八六)5月 「大学出版」86春 創刊。

同年9月 北京国際図書展へ大学出版部協会訪中代表团、参加。

昭和62年(一九八七)9月 北京・国際外国語教育図書展示会へ大学出版部協会訪中代表团、参加。

昭和63年(一九八八)6月 大学出版部協会創立二五周年記念と感謝の会をアルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催。「25年の歩み」刊行。

同年7月 新幹事長に山田涉(東海大学出版会)選出。

平成元年(一九八九)4月 放送大学教育振興会、大阪経済法科大学出版部、協会加入。

同年11月 世界の大学図書展開催。中国・韓国両大学出版部協会代表团、来日。

同 年9月 新幹事長に中平千三郎(東京大学出

版会)選出。九州大学出版会、協会加入。

同年11月 玉川大学出版部・東海大学出版会、国際学術出版連合に加入。

昭和52年(一九七七)12月 東京電機大学出版局、協会再加入。

昭和53年(一九七八)2月 協会、初めて「大学出版部協会総合図書目録」一九七八年度版(日本)を刊行し、共同発送完了。以後年一回定期。

同年5月 東京大学出版会にて、「協会設立一五周年・回顧と展望」座談会を行なう。

同年10月 大学出版部協会創立一五周年記念、大学出版部書展示即売会」を紀伊國屋書店P R ルームにて開催。

同年12月 明星大学出版部、協会加入。

昭和54年(一九七九)8月 産業能率大学出版部、協会加入。

昭和55年(一九八〇)7月 日本生命財団第一回出版助成の贈呈式と講演会。大阪・日本生命財団にて行なわれた。12月 慶應通信、協会加入。

昭和56年(一九八一)8月 韓国大学出版部協会訪日団の歓迎レセプション(日本出版クラブ)。

同年9月 中国にて「日本大学出版物展覧会」を中国図書進出口総会社の主催、大学出版部協会の協賛により開催。

大学出版部協会加盟出版部一覽

北海道大学図書刊行会	〒060 札幌市北区北8条西8丁目 クラーク会館 TEL. 011-747-2308 FAX. 011-758-4071
慶應通信	〒108 東京都港区三田2-19-30 TEL. 03-451-3584 FAX. 03-451-3122
産能大学出版部	〒152 東京都目黒区自由が丘2-16-5 自由が丘サンビル TEL. 03-724-9101 FAX. 03-717-4346
玉川大学出版部	〒194 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL. 0427-28-3213 FAX. 0427-28-3218
中央大学出版部	〒192-03 東京都八王子市東中野742-1 TEL. 0426-74-2351 FAX. 0426-74-2354
東海大学出版会	〒160 東京都新宿区新宿3-27-4 新宿東海ビル TEL. 03-356-1541 FAX. 03-341-1833
東京大学出版会	〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学構内 TEL. 03-811-8814 FAX. 03-812-6958
東京電機大学出版局	〒101 東京都千代田区神田錦町2-2 TEL. 03-294-1551 FAX. 03-294-2807
東京農業大学出版会	〒156 東京都世田谷区桜丘1-1-1 TEL. 03-420-2131 FAX. 03-706-8851(総務課)
東京理科大学出版会	〒162 東京都新宿区若宮町19 TEL. 03-260-4271 FAX. 03-260-4294
法政大学出版局	〒102 東京都千代田区富士見2-17-1 TEL. 03-237-1731 FAX. 03-237-8899
放送大学教育振興会	〒105 東京都港区虎ノ門1-14-1 郵政互助会琴平ビル4F TEL. 03-502-2750 FAX. 03-592-2482
明星大学出版部	〒191 東京都日野市程久保2-1-1 TEL. 0425-91-5115 FAX. 0425-93-0192
早稲田大学出版部	〒169 東京都新宿区戸塚町1-103 TEL. 03-203-1551 FAX. 03-207-0406
名古屋大学出版会	〒464 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学構内 TEL. 052-781-5027 FAX. 052-781-0697
大阪経済法科大学出版部	〒581 大阪府八尾市楽音寺6-10 TEL. 0729-41-8211 FAX. 0729-41-9979
関西大学出版部	〒564 吹田市山手町3-3-35 関西大学会館 TEL. 06-388-1121 FAX. 06-330-3718
九州大学出版会	〒812 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内 TEL. 092-641-0515 FAX. 092-641-0172